

編集後記

皆様心新たに新しい年を迎えられたことと思います。昨年はまだ不況から抜け出せない日本の経済的、社会的、政治的低迷、イラクの出方によっては一触即発の世界政情不安など暗いニュースや問題が多かったが、サッカー、メジャーリーグ、女子マラソンなど世界のヒノキ舞台でのすばらしい活躍のニュースは喜ばしい限りであった。さらにわが国から二人のノーベル賞受賞者が出たことは自然科学者としての一端をになう我々としてはもろ手を挙げて喜んだものである。特に、田中耕一氏の「ソフトレーザ脱離法」というたんぱく質の質最分析法の開発はわれわれ医療に従事する者にとっても大変興味あるものであった。ヒトゲノムの分析が終了したあとに注目を集めているのがゲノムを設計図として形作られるたんぱく質の分析であり、彼の偉業は医学、医療の進歩に大いに貢献するものと思われる。偉大な業績は案外ひよんな事からヒントが得られているものである。彼の研究も最初の発見は偶然であったという。間違えてグリセリンの液体をコバルトの微粉末に落としたのが幸いしたとか。しかし、たまたま起こったちょっとした現象を見逃さず、倒れて掴んだワラで真理を解明したことに彼の偉大な科学者としてのスピリットを感じるのには私だけではないと思う。多忙な日常の診療のなかでごくありふれた現象として見逃されているものの中に気がつかない大事な真理が隠れているかもしれない。ひとつひとつ常識を超えて改めて見直す気持ちを忘れないようにしたい。その意味では症例報告は論文の原点であるともいえよう。頻度の少ない症例だけが症例報告の対象ではないと思う。比較的ありふれた症例にも何か普段気がつかない現象が隠れていることがあり、それを分析して症例報告することが大きな発見に繋がることにもなろう。洗練されていなくとも真面目に観察して書いた症例報告や苦労してみずからの手で測定し、分析してまとめた原著は自ら光を放っているものである。編集委員会では毎月提出された論文約60篇を評価するのは大変な作業ではあるが一編集委員として、真面目にかかれた論文がさらに洗練されたものとなるように助言できれば辛いである。今年もいい論文が発表されることを祈念したい。

(鶴丸 昌彦)